

単位数	2単位	学科・学年・学級	普通科 1年 1組～8組
教科書	工芸Ⅰ（日本文教出版）	副教材等	

1 学習の到達目標

工芸の幅広い創造活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、美的体験を重ね、生活や社会の中の工芸や工芸の伝統と文化と幅広く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めるとともに、意図に応じて制作方法を創意工夫し、創造的に表すことができるようにする。
- (2) 造形的なよさや美しさ、表現の意図と創意工夫、工芸の働きなどについて考え、思いや願いなどから心豊かに発想し構想を練ったり、価値意識をもって工芸や工芸の伝統と文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。
- (3) 主体的に工芸の幅広い創造活動に取り組み、生涯にわたり工芸を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、工芸の伝統と文化に親しみ、生活や社会を心豊かにするために工夫する態度を養う。

2 学習の計画

学期	月	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価の材料等
第1学期	4	表現 身近な生活と 工芸 ガラス工芸	サンドブラスト グラスリッツェン アイディアスケッチ	<ul style="list-style-type: none"> ・サンドブラスト及びグラスリッツェンの技法について理解する。 ・用途からモチーフを考え、創意工夫して構想をまとめる。 ・サンドブラスト及びグラスリッツェンの技法や道具の扱いに注意し、表現方法を工夫しながら制作する。 ・表現や意図に応じた技法や用具を使い、作品の完成度を追求する。 	ワークシート 作品 学習状況
	5		制作 完成		
	6	表現 身近な生活と 工芸 皮革工芸 鑑賞	カービング アイディアスケッチ	<ul style="list-style-type: none"> ・カービング技法と革の特性について理解する。 ・素材や用途に合ったデザインを考える。 ・与えられた素材を最大限に生かして創意工夫する。 ・表現の意図に応じた用具を選び効果的な表現技法を創意工夫し、計画や手順を考えながら制作する。 ・表現や意図に応じた技法や用具を使い、作品の完成度を追求する。 ・作者の意図や思い、創造的な表現の工夫を感じ取る。 	ワークシート 作品 学習状況
	7		制作 完成 鑑賞		
学期	月	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価の材料等
第2学期	9	表現 社会と工芸 装飾	アイディアスケッチ	<ul style="list-style-type: none"> ・木材や道具の扱い、特徴を理解し、条件に合ったデザインを考え発想し、構想をまとめる。 ・彫刻刀の扱いに留意して制作する。 ・表現の意図に応じた用具を選び効果的な表現技法を創意工夫し、計画や手順を考えながら制作する。 	ワークシート 作品 学習状況
	10		制作		

	11	表現 社会と工芸 錫箔レリーフ 装飾	完成	<ul style="list-style-type: none"> 表現や意図に応じた技法や用具を使い、作品の完成度を追求する。 錫箔シートを作品の凹凸に沿って貼り、金属磨きで磨く。 木地が見えないように修正や重ね貼りをする。 	ワークシート 作品 学習状況
	12		制作		
		完成			

学期	月	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価の材料等
第3 学期	1	表現 社会と工芸 螺鈿 平蒔絵	螺鈿 平蒔絵	<ul style="list-style-type: none"> 蒔絵と螺鈿の技法について理解する。 漆の特性を理解する。 下地を斑なく均一に塗る。 表現の意図に応じた素材を選び効果的な表現技法を創意工夫し、計画や手順を考えながら制作する。 表現や意図に応じた技法や用具を使い、作品の完成度を追求する。 作者の意図や思い、創造的な表現の工夫を感じ取る。 	ワークシート 作品 学習状況
	2		制作		
	3		完成 鑑賞		

3 評価の観点

知識・技術	対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めている。 意図に応じて制作方法を創意工夫し、創造的に表すことができている。
思考・判断・表現	造形的なよさや美しさ、表現の意図と創意工夫、工芸の働きなどについて考え、思いや願いなどから心豊かに発想し構想を練ったり、価値意識をもって工芸や工芸の伝統と文化に対する見方や感じ方を深めている。
主体的に学習に取り組む態度	感性を高め、工芸の伝統と文化に親しみ、生活や社会を心豊かにするために工夫して工芸の幅広い創造活動に取り組んでいる。

4 評価の方法

「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3観点から総合的に評価する。

5 担当者からのメッセージ (確かな学力を身につけるためのアドバイス、授業を受けるにあたって守ってほしい事項など)

工芸は用途とデザインが調和した作品です。自分で実際に日常生活で使いたいというものを作り上げましょう。授業の準備は休み時間の間に終わらせてください。道具は丁寧に扱い、後片付けもしっかりとしましょう。制作をするときは集中して取り組む、休憩はしっかりと休む、メリハリのある制作を心がけましょう。授業時間が十分に確保できない場合もありますので、自分の制作ペースから完成までの全体の計画を意識して取り組みましょう。授業数や制作状況等により多少内容を変更することがあるかもしれません。